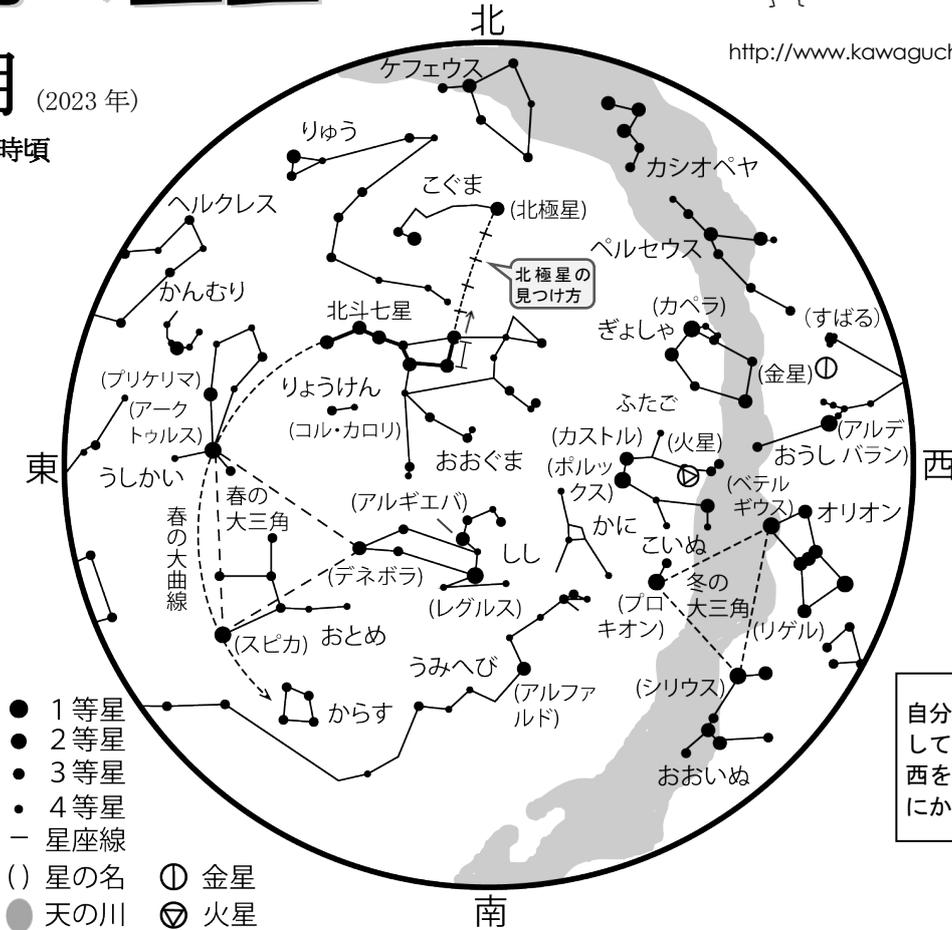


# 今月の星空



4月 (2023年)

中旬 20 時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 星座線
- ( ) 星の名
- ① 金星
- 天の川
- ⊙ 火星

**星図の見方**  
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

**月 齢** ○ 満月 6日、● 下弦 13日、● 新月 20日、● 上弦 28日

**惑星情報** 水星 日の入り後 西(おひつじ座 -1→1等) ※5日~18日まで

金星 日の入り後 西(おひつじ→おうし座 -4等) 火星 夜のはじめ頃 西(ふたご座 1等)

## ☆大柄な春の星空たちが見ごろ

しし座やうみへび座、おおぐま座など、夜空を覆うような春の大きな星座が見ごろです。この時期の空は春霞と言われるように、透明度が低く全体的にかすみがちなので、まずは星図を参考に、市街地でも見つけやすい明るい星(1等や2等)の位置を押さえましょう。中でも、主に2等星がひしゃくの形に並ぶ「北斗七星」はおおぐま座の良い目印であり、「北極星(2等)」を見つけることもできます。しし座は、獅子の胸元にある「レグルス(1等)」、その近くの頭付近にある「アルギエバ(2等)」、やや離れたところにある獅子の尾「デネボラ(2等)」まで、明るい星がバランスよく配置されています。

## ☆水星を見つけてみよう~12日、水星が東方最大離角~

12日は、水星が地球から見て太陽から最も離れる「東方最大離角」となり、日の入り後の西の空で見つけるチャンスです。とはいえ、水星は太陽に最も近い惑星であり、太陽から大きく離れることはないため、観察できるタイミングは限られます。おすすめは、日の入り30分後の高さが10度を超える5日から18日。時間帯は、18時半以降19時前後が目安です。右図を参考に、明るい金星(約-4等)を見つけて、その下方にある約0等(12日時点)の水星を見つけてみましょう。

## 日本の南で珍しい金環皆既日食 ~日本の一部で部分食~

20日、日本の南、インド洋からオーストラリア、インドネシア、太平洋にかけての一部地域で金環皆既(ハイブリッド)日食が起こります。これは場所によって、皆既食や金環食が起こる珍しいタイプの日食です。日本では、関東より西の太平洋沿岸の一部地域で、ごく浅い部分食となります。川口市では見られませんが、近くでは房総半島の館山も含まれ、太陽直径の約1%が欠けるのみです。鹿児島では約3%、那覇では約15%と緯度が小さい地域ほど大きく欠けます。

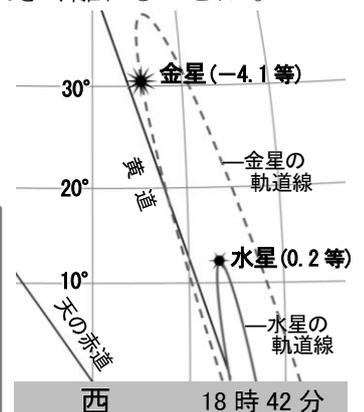


図 4月12日、日の入り30分後の水星と金星の位置(川口市)  
※ステラナビゲータを基に作成